

1月12日より旭川市で行われました大23回北海道中学校バスケットボール新人大会、決戦大会は盛会に終了いたしました。今回はこの決戦大会についての総評をいつもと視点を変えて、審判の目に映った大会として、審判委員長の 浜本 伸先生に原稿をお願いしました。

とくにトラベリングについて参考になる課題が提示されていますので是非考えてみて下さい。

北海道中学新人大会を振り返って

ジュニア連盟審判委員会
委員長 浜本 伸

12月の南北大会、そして1月の決戦大会を振り返り、審判の目から見たプレイヤーの技術について書いて欲しいと、当委員会の幸丸先生からご依頼を受けましたので、私なりに気づいたことを書かせていただきます。

年々、中学生の技術の向上には目を見張るものがあります。我々北海道の男子オールスターチームが、二連覇を果たしたことは、そのことを裏付けているものと思います。そんな状況から、三連覇に期待をかけるのも我々の願いでもあります。是非とも頑張ってもらいと思います。ただその前に、各地区で尽力されている指導者の皆様と、その指導を受け、絶え間なく日々の厳しい練習に励む選手達の努力があってこそそのものであります。まずはその努力に敬意を表したいと思います。

今回、主にその候補選手がいるチームのゲームを拝見させていただき、またそれをジャッジする立場として、少しでも今後の選手達の技術向上に繋がるような話しができればと思います。

特に気になった点ですが、それは、ボールレシーブからのカットイン時に起こる足もとのヴァイオレーションであります。とても切れ味の良い動きなのですが、その動きに足が対応していない（つまり軸足が落ち着かず、ずれてしまう）状態が見られたことです。もしヴァイオレーションが起こらなかつたら、その先にきっと素晴らしいプレーが待ち受けていたはずですが、最初の段階で笛を吹かなければならないのが惜しまれました。

また、ストップからのショットやピヴォットに移る際に、ディフェンスとのコンタクトに対して足のズレを起こし、ヴァイオレーションとなるケースもあったことなどです。オフェンスの技術に当然ディフェンスも対応してきますので、ある時にはしっかりとコースを塞いでいきます。その時に起こる少々のコンタクトへの対応が甘かったように感じました。オールスター大会や全国中学大会での試合を見ていると、やはり「強い」と呼ばれるチームには、その辺の対応力（しっかりとした足の使いや確実に止まるストップ、コンタクトに負けない体力）が備わっているように感じます。

決戦大会の閉会式で、大浦強化委員長もお話されておりましたが、当たりに負けない強い体作りということについては、今後の課題として取り組むべきなのではないかと思いました。

審判の最大の目的は、選手の技術を最大限に発揮できる環境を整えることでもあります。そこには足もとへと目を向けたり、コンタクトに対する判定など、プレーの様々な変化に対して、笛を吹くべきか、吹かざるべきかを常に考えています。我々審判も選手の技術向上に負けない判定力を身に付けるために日々研鑽を積み重ねております。強い北海道のチーム作りに、少しでも貢献できるように頑張っていきたいと思っております。

H B A（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会